



平成24年3月期 第2四半期 決算説明会

クボテック株式会社

経営成績

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成23年9月期)	前第2四半期 (平成22年9月期)	前 期 (平成23年3月期)	当期予想 (平成24年3月期)
売上高	2,490	2,589	5,041	4,300
営業利益(△損失)	134 (5.4%)	380 (14.7%)	531 (10.5%)	110 (2.6%)
経常利益(△損失)	126 (5.1%)	367 (14.2%)	510 (10.1%)	75 (1.7%)
当期純利益(△損失)	94 (3.8%)	329 (12.7%)	449 (8.9%)	50 (1.2%)

- ◎当第2四半期は、主力の画像処理外観検査装置の減収で売上、利益ともに前年同期を下回りましたが、計画していた納期が一部前倒しになり、当初予想に対しては増益となり業績予想を修正しました。
- ◎通期は、為替や景気動向など懸念材料は多いと思われますが、引き続き画像処理外観検査装置を中心で売上を確保し、当初予想を達成する所存です。
- ◎Kubotek USAは、前年同期に比べ販売は増加しましたが、販売経費等が増加し損失を計上しました。また、設立から2年目のKUBOTEK KOREAは、順調に業績を伸ばしております。

貸借対照表

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成23年9月期)		前第2四半期 (平成22年9月期)		前 期 (平成23年3月期)	
	金 額	構 成 比(%)	金 額	構 成 比(%)	金 額	構 成 比(%)
流動資産						
現預金	3,006	44.5	2,288	37.9	2,364	38.1
売上債権	1,158	17.1	770	12.7	1,015	16.4
在庫	634	9.4	948	15.7	784	12.7
その他	△ 22	△ 0.3	△ 31	△ 0.5	5	0.1
固定資産	1,981	29.3	2,070	34.2	2,029	32.7
資産計	6,758	100.0	6,046	100.0	6,198	100.0
流動負債	3,238	47.9	3,868	64.0	3,279	52.9
固定負債	1,447	21.4	343	5.7	944	15.2
負債計	4,685	69.3	4,211	69.7	4,224	68.1
資本金	1,951	28.9	1,951	32.3	1,951	31.5
利益剰余金	142	2.1	△ 72	△ 1.2	47	0.8
その他	△ 21	△ 0.3	△ 43	△ 0.8	△ 25	△ 0.4
純資産計	2,072	30.7	1,834	30.3	1,974	31.9
負債及び純資産合計	6,758	100.0	6,046	100.0	6,198	100.0

◎総資産は、前年同期末に比べ、現預金などで7億円増加し、67億円となりました。

◎負債は、前年同期末に比べ、借入金などで4億円増加し、46億円となりました。

◎純資産は、前年同期末に比べ、純利益の計上から2億3千万円増加しました。

報告セグメント別売上高

(単位:百万円)

	当第2四半期(平成23年9月期)		前第2四半期(平成22年9月期)		前期(平成23年3月期)	
	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)	金額	構成比(%)
日本	2,208	88.7	2,411	93.1	4,570	90.7
米国	119	4.8	108	4.2	232	4.6
韓国	162	6.5	68	2.7	238	4.7
計	2,490	100.0	2,589	100.0	5,041	100.0
うち海外	1,932	77.6	2,242	86.6	4,262	84.5

◎日本では、主力製品である画像処理外観検査装置は堅調なもの、大手FPDメーカーの設備投資の状況から、前年同期に比べ減収となりましたが、売上の一部前倒しとハイビジョン映像伝送装置などのネットワーク機器が増加し、当初予想に比べ増収となりました。

◎米国では、3DCADシステムの売上は堅調でしたが、新製品の3Dモデル検証ツール「Validation Tool」が伸び悩みました。

◎韓国では、画像処理外観検査装置の部品販売が、大手FPDメーカー向けに増加しました。

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当第2四半期 (平成23年9月期)	前第2四半期 (平成22年9月期)	前期 (平成23年3月期)
I. 営業活動によるキャッシュ・フロー	128	959	1,251
II. 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 85	△ 111	△ 182
III. 財務活動によるキャッシュ・フロー	596	20	△ 122
IV. 現金及び現金同等物に係る換算差額	3	△ 1	△ 2
V. 現金及び現金同等物の増加額	642	867	943
VI. 現金及び現金同等物の期首残高	2,269	1,326	1,326
VII. 現金及び現金同等物の期末残高	2,912	2,194	2,269

◎ 営業活動によるキャッシュ・フローは、純利益の計上と在庫の減少などから、1億2千万円の収入となりました。

◎ 投資活動によるキャッシュ・フローは、CAD/CAMソフト「KeyCreator」の開発投資などにより、8千万円の支出となりました。

◎ 財務活動によるキャッシュ・フローは、借入により5億9千万円の収入となりました。

まとめ

- ◎液晶をはじめとするFPD分野では、携帯情報端末などで旺盛な需要はあるものの液晶テレビ向けが低迷し、大手FPDメーカーの設備投資は先送りされております。
- ◎当第2四半期は、前年同期比で売上、利益ともに減少したものの、検査機システム事業において下期に予定しておりました製品の納期が客先都合から早まり、当初予想を上回りました。
- ◎通期は、厳しい事業環境の中で受注を確保し売上目標を達成し、新製品の開発と原価低減を更に進め、海外子会社を強化するなど、安定した事業構造の確立に向け努力する方針です。